

ボールの特性レポート

BALL REPORT



| | | | | | |
|------|-------|-----|-------|-----------------------|-----------|
| ボール名 | LX05 | 投球者 | 徳江 和則 | センター | 平和島スターボウル |
| RG | 2.490 | △RG | 0.038 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール | |

テストボール：LX05

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

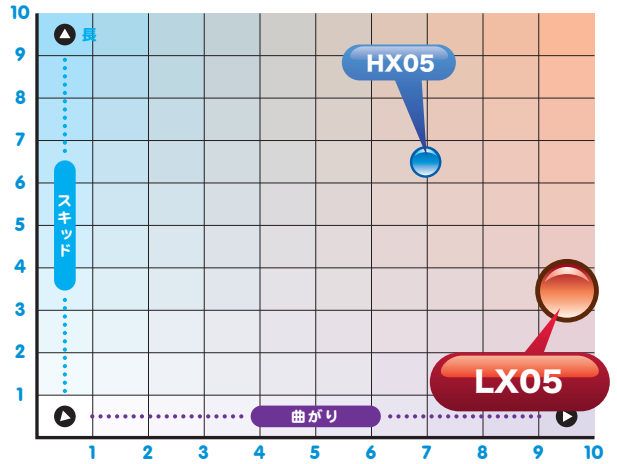
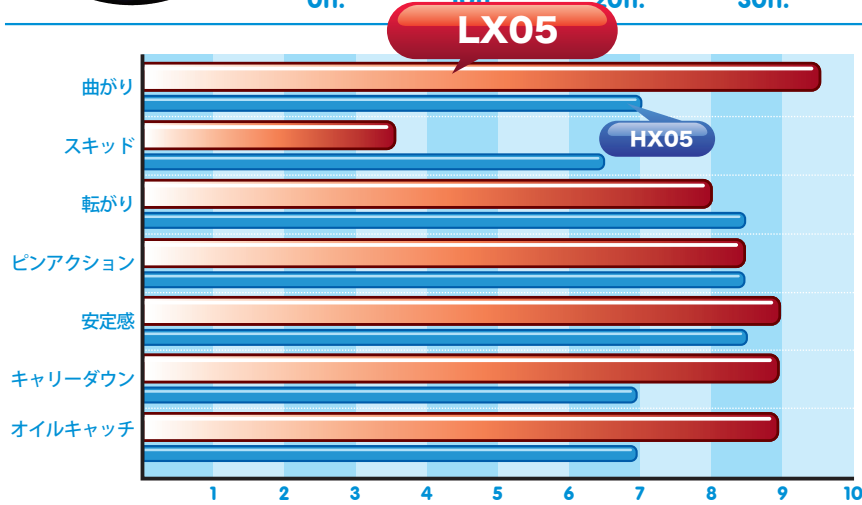
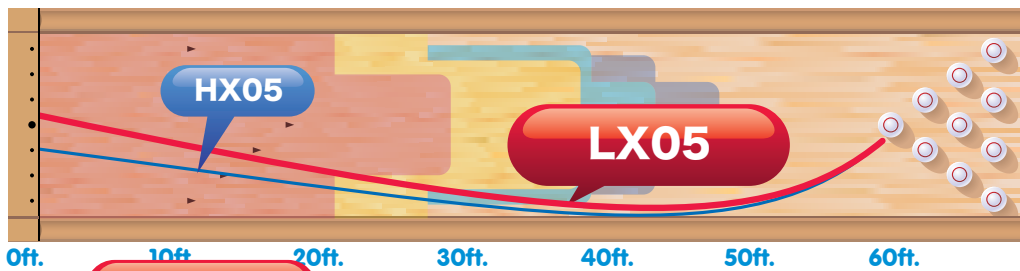
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：HX05

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

TRACK社はナンバーシステムから移行し、「L」「M」「H」と領域をシンプルにして各々特色のある性能を見出しています。今回ご紹介するLx05は、ミディアムクラスのQR-4HYBRIDカバーストックに#500,#2000のボックスフィニッシュでコアテクノロジーはキネティックに代表されるShuttle。「Lモデル」で安定感と読みやすい動きを繰り出します。LX05はテストの段階で非常に気になっていたボールで、さまざまな手法でのテストングの中で特筆すべき点がありました。このLx05は二つの使い分けができ、このLx05は「L」モデルもつ早目の立ち上がりを求めるボウラーに。もう一つはポリッシュ加工を施し、「H」レベルと同等の過激な反応をしない遅めのコンディションで扱いやすい曲がりを求めるボウラーに。表面加工だけでこれだけ両極端な性能を発揮できるスペックは類がないほどであり、しかし双方に共通して言えるのは、表面の加工有無にかかわらず安定感と読みやすい曲がりのイメージには変化がなく、あまりにもLとHぐらいの「上下の違いを一つのボールで得られることができる」という点では、ボウラーが任意で性能領域を選べるという利点でもあり、利便性を考えるとバックの中に一つは入れておきたいボールとも言えるでしょう。

私が投げたいイメージではボックスフィニッシュのまま使用するとミッドエリア手前からかなり強いキャッチを感じ、起き上がりの早さを感じます。そしてポリッシュ加工を施すと性能は一気に逆転し、遅めのコンディションでかなり有効に使用することができます。私の場合はポリッシュ加工の状態でもウッドベースの遅めのコンディションで使いたくなるような、扱いやすい曲がり印象的でした。皆さんも表面の加工をチョイスして自分にあった加工を見出す面白みのあるボールです。

特記事項

「L」シリーズとしてミッドエリアからの太いトルクのある曲がりを選ぶか、ポリッシュを施し、遅めのコンディションで扱いやすい曲がりを選ぶか。利便性の高いボールです。